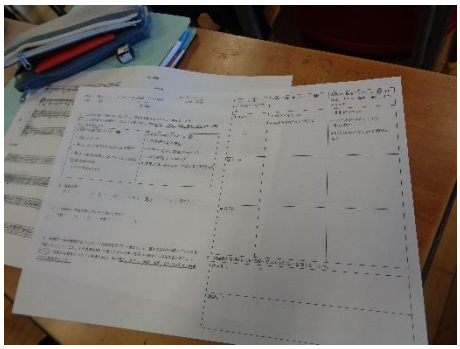
宝物はすぐそばに

校内研通信
第46号　　R8.1.14
発行者:校内研担当　仲村智

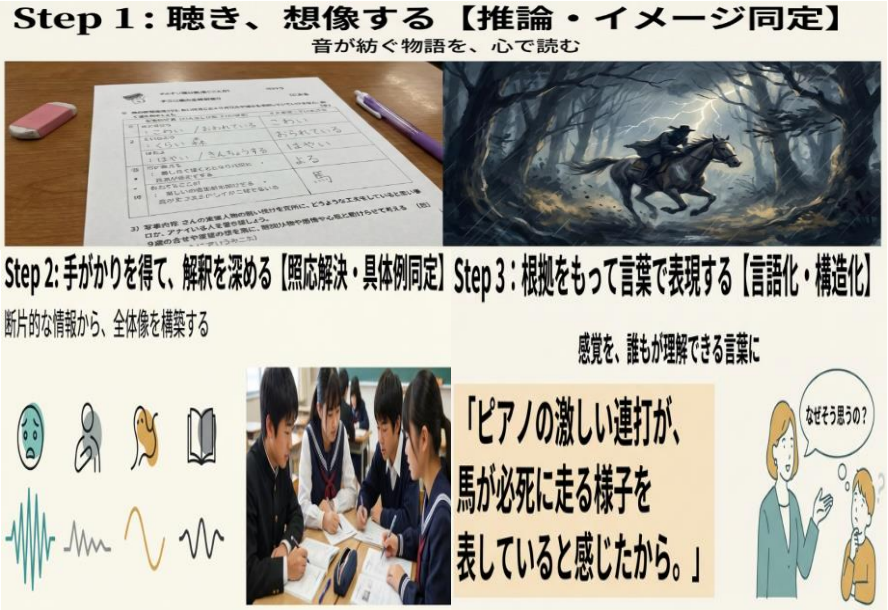
その結末に衝撃！！“魔王”と“ボヘミアン・ラプソディー”



１月１４日（水）２校時、２年３組にて上原あかね先生が音楽の授業を公開しました。本時は鑑賞の授業で、登場人物の声の特徴を感じ取り、音楽から聴き取った事と結びつけて書くことがねらいです。題材は昨年１２月に行った平良優奈先生と同じ“魔王”です。同じ題材ではあるものの、互いの先生の特徴や良さがでた授業内容となっていました。学習する生徒も２年生と１年生で違ったのですが、さすが２年生😳曲を聴いて感じ取ったことを言葉にする表現力の豊かなこと、何となくは感じていることだけどそれを見事に言語化する能力、まさにRSのお手本となる授業を見ることができたような気がします。分からない言語（ドイツ語）の歌詞だからこその創造力や感受性を高めて聴く仕掛け・工夫だったように思います。最後に日本語訳でその内容も示され、個人的にバッドエンドの衝撃を中学生以来の追体験をするのでした😱　あかね先生、ありがとうございました。

RS みいつけた！

音楽鑑賞 と RS



構造理解の共通性

音楽にも言語と同様に、メロディ、リズム、和声、楽曲形式といった「構造」や「ルール」が存在します。例えば、ソナタ形式における「提示部・展開部・再現部」という構造を分析する力は、論説文における「序論・本論・結論」という論理構造を読み解く力と通底しています。音楽の構造を分析的に捉える経験は、文章を論理的に読み解くスキルを育成するのです。